

全科協ニュース

URL <http://jcsn.kahaku.go.jp/JCSM/>

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110-8718 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成10年11月15日発行（通巻第163号）

開館 1000 日を過ぎて思うこと

神奈川県立生命の星・地球博物館 濱田 隆士

1. 地域博物館設立の理想と現実

神奈川県立博物館は昭和42年に開館し、約30年の実績をふまえ、地元では“馬車道の県博”と親しまれてきた。人文系と自然系を含んだ、いわゆる総合博物館としての出発であったが、時の流れとともに資料の増大、アウトドアライフ志向、地球環境問題、発掘ブーム等、種々の外的条件の複雑化・多様化が進み、国指定重要文化財としての横浜正金銀行の建物では対応しきれない状況が生まれてきた。

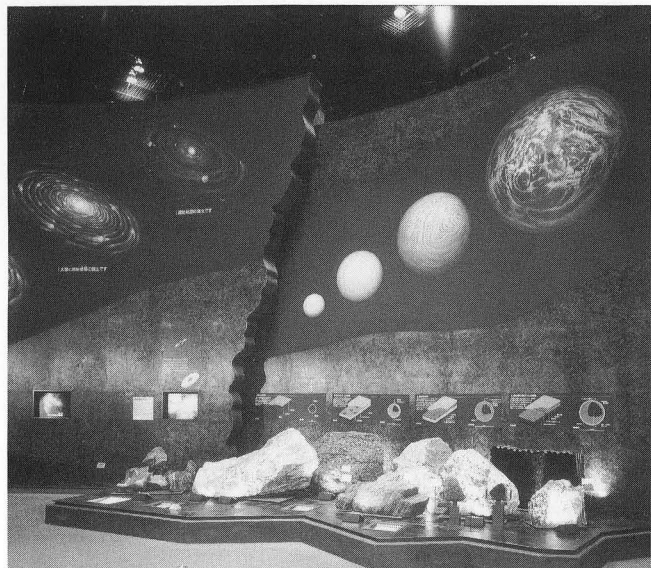
神奈川県は昭和61年12月、県立博物館の再編整備構想を

打ち出し、自然史部門、人文部門の充実と分離独立を検討してきた。その結果、自然史部門が小田原市入生田の地に独自の建物を構え、在来地で再開館した「県立歴史博物館」の兄弟館として「県立生命の星・地球博物館」の名のもとに平成7年3月20日、オープンしたのである。

博物館構想の実現には、新設であろうと再編整備であろうと、深い理念の構築と周到な準備が不可欠であることは言うまでもない。前者に関して自然史部門では、新しい時代の先取りを目指し、中堅学芸員を軸として旧来の枠から



神奈川県立生命の星・地球博物館



神奈川県立生命の星・地球博物館「世界最古の岩石」展示
(「地球」展示室)

抜け出すことの出来る斬新なプラン創りに努力が重ねられた。

再編整備計画が打ち出された頃は、振り返ると、一つの大きなエポックであったといえる。それはバブル経済の最盛期であり、かつNHKスペシャル「地球大紀行」が大受けの“紀行ブーム”時代だったのである。縁があって、地球大紀行制作関係者やNHK関係者の方々が設立準備のための御意見番に参加しておられた事もあり、主題展示に、資料収集に、「地球」なるテーマが色濃く反映されるといういきさつとなった。

地域博物館という呼称は、一頃関係者から中央との格差を強調する差別表現ではないかとして嫌われた時代があった。しかし、現実には地域に根ざす必要がある各県立博物館にとって、いかに“地域”を演出できるかが本題であり、加えてグローバルな視点時代の今日的課題でもあり、全ての地球人にとって避けて通ることのできない重大テーマの地球環境問題をどのように受けとめ、それにどう対応できるかが問われる時代となってきた。この新しい局面をいかにわかりやすく整理した形で世に提示するかが、地域博物館の現代的な在り方をアピールする重要使命となっているといって過言ではあるまい。

県議会と長洲知事(当時)の英断によって、名称を「生命の星・地球博物館」とすることに決まり、地域と地球規模現象との良いバランスのうえに新しい自然史博物館を創ろうという画期的な事業となった。しかし、再編整備計画がスタートしてから8年余りの歳月が流れ、理想実現へ向

けての夢は、建設段階で不況の波に晒されることになったのは、まさに時の神のいたずらとしか表現のしようがない。

2. 開かれた博物館への模索

展示アイテムや取り組みの理念として掲げられる博物館運営の主張の他に、来館される県民や一般の方々はいかに本館の主張をアピールできるかの手法を確立すべき責務も博物館の人々は負うべきである。そのために、生命の星・地球博物館としては開館当初、おおまかに“開かれた博物館をめざして”という指針を打ち出すことにした。

“開かれた”という意味合いは非常に幅広く受け止めることができる。開かれていない、という状態は、通常門戸を閉ざしているか、何かの障壁があり内外の自由な交流ができないということであり、これに対して正にバリアフリーの語が対置されることになる。したがって、バリアフリーなる語表現には多様な局面がある。大まかであるが、バリアの各種について一応の整理をしておく。

- | | |
|--------|--------------------------|
| a. 身心的 | { 視聴覚機能の不全
歩行等運動機能の不全 |
| b. 制度的 | |
| | { 予算・人員配置等
各種規制事項等 |

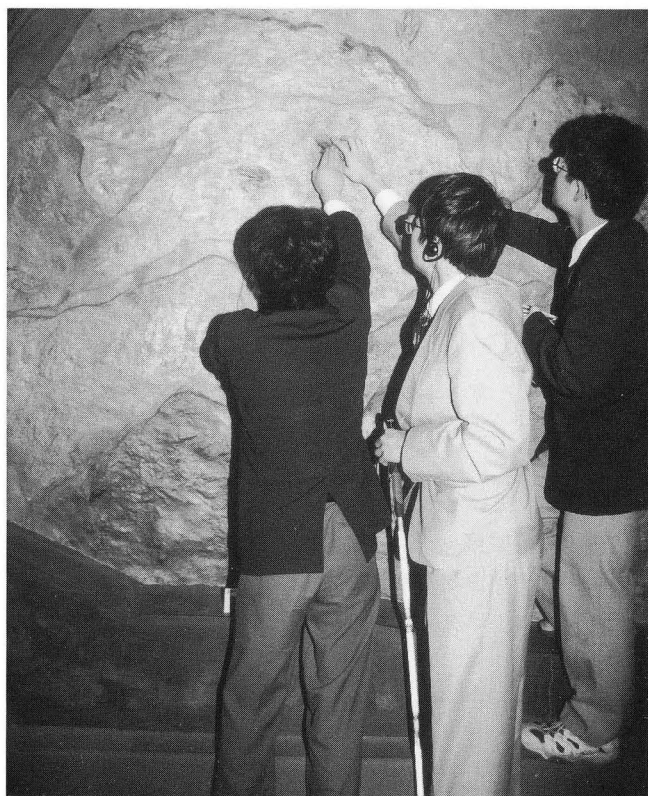


神奈川県立生命の星・地球博物館「アンモナイトの展示」
(「地球」展示室)

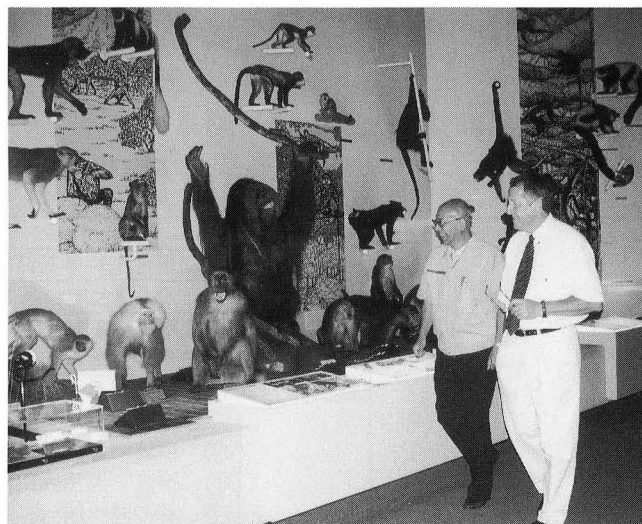
- c. 社会的
 - 年齢差等
 - 学歴・職種・経歴等
- d. 文化的
 - 地域性
 - 言語・習慣・宗教・情報等

博物館行政の一般としては、主として、設備面での‘b. 制度的’対策が先行しているとみてよい。しかし、その本質は建築条件として定版のものという理解の方が深く、ソフトを十分に活用した事例はむしろ少ない現実がある。奥野（『神奈川県立博物館研究報告 自然科学』第27号 1998.）による全国の博物館園における視覚障害者の対応に関するアンケート調査の結果がそれをよく示しており、館運営でのより積極的なバリアフリー方策の開発が必要である。

生命の星・地球博物館でも、出発時には誘導用ブロックや傾斜道など以外には何のインストールもなかったもので、2年目以降にはポータブル型音声ガイド・解説システムを主展示場の選ばれたアイテムに対して適用し、当初からのバリアフリー施策である“触れてよい”、“写真を撮ってよい”の二大方針とのマッチングで活かされている。今後はシステムの改善により、設備案内や館内施設ガイドにも拡大する方針を打ち出している。



神奈川県立生命の星・地球博物館「恐竜の足跡の展示」
（「地球」展示室）



自然科学者ワトソン氏来館（1997.9.27）

バリアフリーの発想には、本質的には対応措置としての意味付けが先行している。根本的には、全てのバリアを外すということは、ただ単に特定対象アイテムをターゲットに考えるのではなく、万人のための方策を模索すべきものであろう。つまり、ユニバーサル思想の認識とそれに基づく施策の構築にまでたどり着く必要がある。生命の星・地球博物館としては、このような認識のうえで、平成10年を博物館ユニバーサル化元年と位置づけ、その方向へ努力する意思を表明したのである。

3. ユニバーサル博物館への道

ユニバーサルという思想は、そのような呼び方でなくとも、すでに様々な局面で総合的に具体化されており、決して目新しいものではない。しかしながら、いざその実行へのプロセスとなると色々な事情がからみ、なかなか思い通りに進まない、という特徴がある。良い例は「生涯学習」である。超若年齢層は別として、この“文明”社会では、本来「いつでもどこでも」自由に知的欲求を満足させる体制があつて然るべきである。けれども現実には、例えば制度教育との違いや受け皿となる母体の多様性など、道に迷う事態をクリアーできるまでには至っていない。

生涯学習の高等教育部分に関しては全国化が実現できた放送大学のシステムをはじめ、様々な大学機関での公開講座、民間のカルチャーセンター類など、資格認定に違いはあるものの、一応の学習環境設備ができてきたとみてよい。その一方で、これからの重要課題となるのは、平成14年から実施が見込まれている学校教育制度での週5日制によつ

南関東地域科学系博物館ネットワーク

	南関東地域科学系博物館ネットワーク	
	「大地」系	「水」系
地域特性	関東平野、多摩丘陵、富士・箱根や伊豆大島の火山群	相模湾、駿河湾、相模川
連携館	① 神奈川県立生命の星・地球博物館（コア館） ③ 川崎市青少年科学館 ⑤ 伊豆・大島火山博物館 ⑦ 石の博物館・奇石博物館	② 江ノ島水族館（コア館） ④ 相模原市立相模川ふれあい科学館 ⑥ 東海大学海洋科学博物館



て発生する、土・日曜日の在り方であろう。

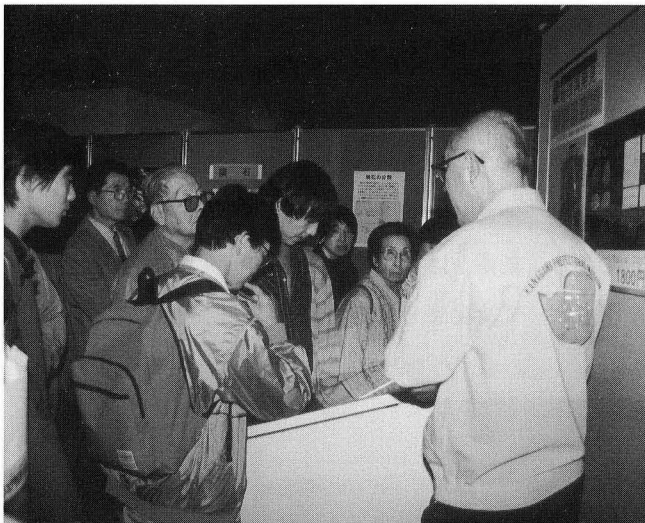
生命の星・地球博物館は、オープン当初から“週休2日制”対応のプログラムを組み、野外観察をはじめ多彩な活動を行なっている。文部省は制度教育を離れた「教室外学習活動」として“親と子の触れ合い”を軸に地域博物館ネットワークを通じた自由な学習活動の支援策として、県域にこだわらず、県やその教育委員会経由でない資金の運用制度を平成9年度から開始し、11年度までの3年間で試行期間として非制度的学習の在り方のモデル構築を考えている。

生命の星・地球博物館は、「南関東地域科学系博物館ネットワーク推進協議会」のコア館として、上記のモデル構築事業を通じ、自然史博物館としてのユニバーサル学習の実現を目指している。当館責任としての大地系と江ノ島水族館責任の水系とを統合し、東京都、神奈川県、静岡県の公立私立の博物館園7ヶ所を結ぶネットワーク事業を担うものである。このような発想の博物館活動が全国に普及すれ

ば、初等中等教育に見合い、かつ家庭・地域ぐるみのユニバーサル学習システムは、一つの新しい道を切り拓くことができるであろう。

残される難問は、受験地獄の高校レベルでのユニバーサル発想との関連である。各博物館園の入館者データが示すこの年齢層の利用人数の極端な低水準は、大きな社会的課題というべきものである。ちなみに、全くの任意集合体として活動している「神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会(WESKAMS)」主催の“ミュージアムリレー”という月1回の各館を巡るイベントにはいつも高校生30～90名の参加があり、活況を呈している。高校生一般の理科嫌い、教室離れを考え、ユニバーサル学習一般を思考するうえで貴重な事例と自認しており、今後も活動枠を可能な限り広げてゆくことが期待されている。

開館日数1,066日目に1,470,540人の来館者を得て、館事業の進捗状況とみていただければ幸いである。(平成10年10月4日記)



第1走“ミュージアムリレー”神奈川県立生命の星・地球博物館で開催 特別展示の解説 (1997.10.17)



第12走“ミュージアムリレー”箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターで開催 (1998.9.30)

ドイツでネアンデルタール人の博物館が開館

1996年10月に、旧人類ネアンデルタール人を紹介した人類学博物館が、ネアンデルタール人の化石が発見されたメッテマン市（デュッセルドルフ近郊）に開館した。同館は単に今から約140年前にフルロット博士によってメッテマン市の石灰岩洞窟から発見された当のネアンデルタール人に焦点を当てているのではなく、人類の進化史を大きく取り上げている。常設展示は、「生活と生き残り」、「道具と知識」、「環境と食べ物」および「コミュニケーションと媒体」のテーマに分かれ、それぞれに最新のマルチメディア技術やドラマ性の高い演出技術が応用されている他、ハンズオン展示も多く使われている。敷地は、地元メッテマン市から提供されたが、建物の建設費はノルトライン・ウェストファール州から1200万マルク、そして常設展示にエネルギー供給会社のRWE社が555万マルクを、それぞれ寄付した。年間運営費の30%は、メッテマン市が肩代わりしているが、残りの70%は入館料収入、寄付、ショップ等の収益事業から賄われている。現在は年間約25万人が同館を訪れている。同館は自主収益が強い運営だけでなく、イニシャル・コストの分担方式、コレクションを持たないことで、新しい博物館の在り方を示唆していることで欧州で注目されている。建築延べ床面積：2740平方米、常設展示面積：1200平方米、特別展示面積：250平方米。Neanderthal Museum <www.nenderthal.de>

ヒューストン自然科学博物館に、アメリカ大陸の先住民を紹介する常設展をオープン

1998年6月にジョン・P・マッグバン氏からの寄付を受けて、ヒューストン自然科学博物館で、コロンブスがアメリカ大陸に上陸する以前からアメリカ大陸にすむ人々のくらしと文化を紹介する常設展がオープンした。展示面積：1200平方米。

カリフォルニア科学館で、細菌を紹介した特別展を開催

1998年3月に全面改装されたカリフォルニア科学館（旧カリフォルニア科学産業博物館）では、健康と人間の生命を重要なテーマとして取り上げている。中でも巨大な機械じかけの人体模型テスを使ったシアターが人気を博している（写真参照）。また同館では、今後医学や健康をあつかった展示事業に力を入れていく計画だ。このほど9月7日まで開催された『細菌：見えない侵入者、驚くべきパートナー Microbes: Invisible Invaders, Amazing Allies』は、子どもを対象とした特別展である。アメリカの代表的な医薬品メーカーのピフエツァー社の全面的な資金協力のできた同展では、有害なバクテリア、細菌、ウィルスや原虫がどんな姿をし、どのように進化し、また研究者による戦いの歴史を紹介している。マルチメディアが利用されている他に演劇で使われる演出技術を多く利用されている事が特色である。細菌がはびこる台所やバリの下水道が芝居のセットを使って臨場感を演出している。同展は、カリフォル



時計じかけの人体模型『テス』が主役の人体シアター（撮影：安井亮／1998.11）

ニア科学アカデミー（サンフランシスコ）で1月10日まで開催したあと、ダラス・サイエンス・プレース、シカゴ科学アカデミー、バッファロー科学博物館、グレート・レークス科学館等で順次開催される。同展は、カリフォルニア科学アカデミーでの開催中は、www.calacademy.org/exhibits/microbes/で一部概要が紹介されている。

カーネギー自然史博物館に、自走式解説ロボットが登場

世界に先がけて、自走式ロボットによる解説が、1998年春に、カーネギー自然史博物館（米国ピッツバーグ）に登場した。高さ約180センチのこのロボット『チップス Chipps』は、毎日、同館の恐竜展示ホールで観覧者とともにホール内を動き回って、恐竜に関する解説を行っている。『チップス』は、ロボット工学のすぐれた研究で知られる地元カーネギー・メロン大学のイラー・ノーウルバクシシュ女史の全面的な協力でわずか100日の開発期間で完成した。『チップス』は、深夜テレビ番組の『スタートレック』で登場するアンドロイドや、映画『スターウォーズ』で登場するC3POのような姿をしておらず、むしろ円筒形の金属のかたまりである。デザインの意図もあえて、擬人化しなかった。なぜなら「チップスは人間でないの、あえて人間のようにしたくなかった。」とあった。もっとも、『チップス』は、話すことができ、人間の導きなしにホール内を動き回り、15分の解説ツアーを観覧者に提供する。センサーによって、人間による指の指示を感知し、また充電をするために、からだも休むことを知っている。近くにいる人間の感知は、たえず超音波を発信し、人間に当たってはね返る超音波の受信で、正確に人間の位置を確認して、接触事故を未然に防ぐようにプログラム化されている。何かトラブルが起こった際には、即座に担当スタッフに電子メールが送られてメッセージが伝えられ、指示をあおぐようになっている。『チップス』の登場後、ワシントンDCのアメリカ歴史博物館にも案内ロボット『ミネルヴァ』が登場したが、こちらの方は人間の要求に対しては、『チップス』にくらべややニブいが、愛想だけはいいようだ（ミネルヴァの進路方向に人間がいると、その人間に対して警告音と『スマイル面』をする！）。

新しいホームページ

Health Museum of Cleveland. Cleveland, U.S.A.

<http://healthmuseum.org>

Hudson River Museum of Westchester. Yonkers, U.

S.A. <http://www.hrm.org>

Huntington Botanical Gardens. San Mario, U.S.A.

<http://www.huntington.org>

Imagination Station. Lafayette, U.S.A.

<http://www.nlci.com/imagination>

Impression 5 Science Center. Lansing, U.S.A.

<http://www.voyager.net/impression-5>

Indianapolis Zoological Society. Indianapolis, U.S.A.

<http://www.indyzoo.com>

James Lovell Museum of Science. Milwaukee, U.S.A.

<http://www.braintools.org>

Kalamazoo Valley Museum. Kalamazoo, U.S.A.

<http://www.kvcc.edu/kvm/kvm.htm>

Kentucky Highlands Museum. Ashland, U.S.A.

<http://www.quickpage.com/K/kenhighmu>

Kirkpatrick Science & Air Space Museum. Oklahoma City, U.S.A.

<http://www.ionet.net/~omniplx/>

Lake Champlain Basin Science Center. Burlington,

U.S.A. <http://www.uvm.edu/~lcbssc>

Lakeview Museum of Arts & Sciences. Peoria, U.S.A.

<http://www.lakeview-museum.org>

Las Cruces Museum of Natural History. Las Cruces, U.S.A. <http://www.nmsu.edu/museum>

Leon M. Lederman Science Education Center. Batavia, U.S.A.

<http://www-ed.fnal.gov>

Lodestar. Albuquerque, U.S.A.

<http://lodestar.phys.unm.edu>

Louisville Science Center. Louisville, U.S.A.

<http://www.lsclouienet.org>

Lowell Observatory. Flafstaff, U.S.A.

<http://www.lowell.edu>

McKinley Museum of History, Science & Industry. Canton, U.S.A.

<http://www.mckinleymuseum.org>

*安井亮事務所：Fax.0427-36-5916

E-mail:QFH03327@nifty.ne.jp

海外科学系博物館視察研修(その5)

ニュージーランドサイエンスセンター

(クライストチャーチ)

○管理・運営について

センターは、クライストチャーチ市中心地より車で約15分程の郊外に位置する。

当センターが所在する建物は以前クライストチャーチの鉄道の駅舎であり、構造は地下1階、地上2階である。この建物の半分をセンターが所有しており、映画館や、ゲームセンター等に場所を貸し収益を得ている。

1991年に創設され、1992年にオープンした施設である。公共の施設ではないが、国や市から補助を受ける非営利団体である。

職員数は17名、ボランティア数は40名(登録者)、夏休み等の繁忙期には最大150名になることもある。ボランティアは展示場での指導以外に事務部門の業務、売店業務および清掃業務等の行政ボランティアも登録されている。

年間予算額は120万N\$, 収入内訳は、政府(教育省)より15万N\$, 市より22.5万N\$, 企業からの寄付3万N\$, 入場料2.8万N\$, テナント料6万N\$, その他ワークショップでの収益。

建物面積は4,500m²でそのうち、1,500m²を一般公開(展示室)している。

年間入場者数は、75,000人(内訳、一般: 50,000、学生: 25,000)であり、約1/3が学生である。なお、入場料は、

一般6.5N\$, 学生・シニア5.5N\$, 家族(4名)20N\$である。

企画展示は大型展を年2回、小規模を年2回実施している。期間としては3か月毎に更新している。当センターの展示は参加体験型の展示である。地下室のワークショップでは、ニュージーランド国内を始めオーストラリア・ドイツ・アメリカ等の博物館やテレビ局からの受注があり、収益は館の運営費に充当している。

非公開部分には教育に関する、発見の部屋、科学の部屋、テクノロジーの部屋の3室があり、部屋毎に各種プログラムがあり学校等の団体の予約者に利用されている。

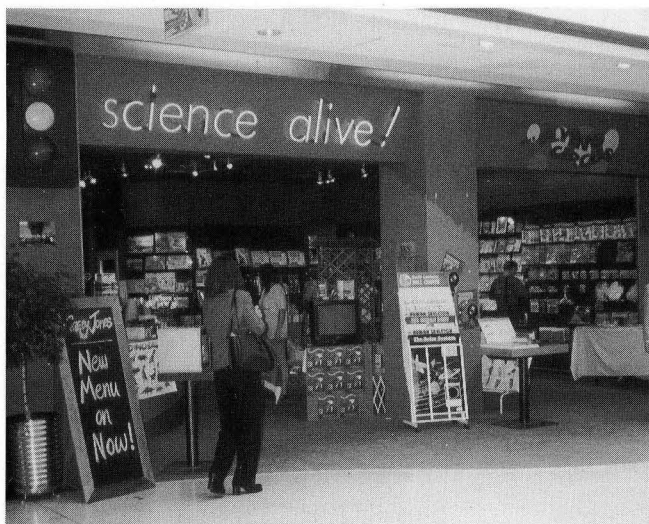
リソースセンターには、貸出用の資料(標本等)があり有料で貸出が行われている。

地下室の大部分は倉庫として現在使用されているが、将来ここを展示場とする計画がある。約50万N\$を必要とするため計画の実行が遅れている。

<国立科学博物館 庶務部 金澤幸博>

○展示について

ニュージーランドサイエンスセンターの展示は、一般的な体験型展示と言うよりは活動展示と表現した方が良い。バンジージャンプ、人間キャノン砲、自由落下体験の滑り台(高さ約3mのサイクロイド曲線になっている)、空中自転車等々あたかもサーカスのよう。訪れている子供達の嬉々とした姿はアトラクション(?)の豪快さからか今回視察



ミュージアムショップ



人間キャノン砲

の中で印象の強い一つであった。一見、児童館の凝った遊具に思えるが、その実ニュートン力学、いわゆる物体の運動がテーマになっているところがサイエンスセンターたるところか。展示室の中で思い切ったテーマの絞り込みを行い、Exhibitionの段階で大道具を駆使して多様に展開する方法は、盛り沢山の内容を省スペースで伝えることに慣れている目にはどこか子供心を彷彿とさせ、新鮮であった。しかし、科学館として判断するのであれば、重力体験の後のフォローアップがどのように行われるのかも重要な課題になり、この部分が欠落すると遊園地になってしまうのも事実。博物館活動は学校教育の補完機関ではなく、その逆も真であり、一つの制度として独自の完結性が望まれる。この手の内容の展示を行うのであれば、学校教育グループの地域科学センターか博物館の一部分であるべきかもしれない。そうは言いつつ、展示物の形状は思い返すと明解かつ科学的であり、知識として与えすぎない見地からすればフォローアップも含めてまさに体験型であったか。

冒頭活動展示と表現したが、実は表方だけでなく展示をサポートしている裏方も含めてのこと。ここのワークショップでは自館だけでなくアメリカ、ドイツの他館への輸出用、TVの子供番組用の大道具まで手掛けている。この底力を持って、近い将来、地下室の倉庫を地元出身の物理学者ラザフォード博士などを扱った科学史の展示室に改装していくとのことで楽しみである。安全性に関しては、A.C.C (Accident Compensation Cooperation) 制度があり展示物をこの機関で確認するとのこと。日本ではPL法によるが、ワークショップ方式では製造者責任では荷が重く、国の傘下にあるA.C.C制度的なものの方が馴染み易く、日本でもワークショップが出来るとすればこのようなシステムが不可欠に思われる。身近にワークショップを持ち恒常的に伝えるべき内容、表現方法を思考し微調整を行うことは、与える博物館から考える博物館への近道なのかもしれない。

＜株式会社丹青研究所 小林宜文＞

○教育普及活動について

当センターは、各視察施設と比較すると、非常にエキセントリックな施設だと感じた。

運営システムもさることながら、教育普及活動の面でも、ありがちな義務教育的な活動方針ではなく、当センターらしい自然的なゆとりある教育普及方針が感じられた。



科学の部屋各実験アイテム

活動としては、教育委員会と年4回の会合をもうけ、「学校教育の進捗状況」、「子供達に何が必要なのか」、「どの様な体験が必要なのか」等の意見交換を行っている。

これらの情報から、教育に必要なテーマや実験アイテムを創造し、対象年齢別に分けた三つのエリアにて教育している。

エリア1 発見の部屋（対象年齢5～6歳）では小児が飽きないで2時間程滞在できる程度の内容とし、塗り絵や童話をうまく利用したワークシートの利用から、家を造れるような大型レゴ等を利用している。両親と一緒に楽しみながら、発見の喜びを学ぶ場である。

エリア2 科学の部屋（対象年齢7～11歳）では子供達が科学実験をプログラムにのっとり、実験カードを見ながら、自主的に学ばせることに主眼をおいている。レクチャーは各学校教師が担当する。

エリア3 テクノロジーの部屋（対象11～16歳）ではレゴとコンピューターをうまく合せ、パソコン画面の指示で、様々な実験・結果・原因を学んでゆくプログラムである。

実験を通じて、コンピューター操作に慣れ親しむことも教育目的となっている。

エリア1からエリア3を通じて言えることは、学校教育では、環境・時間的に対応できない実験の場を提供しており、子供達が自主的に遊びを通じて科学の基本原則を学べる環境であるということである。

教育者も子供達が解らない時にだけ助ける姿勢を一貫している。

その他にリソースセンターと呼ばれる部屋があり、ここでは、教育用に各学校に貸し出せる資料ケースを200ケース程用意している。

アイテム的には、昆虫等の標本資料を紙芝居風にアレンジしてBOXにまとめた「紙芝居型キット」や、簡易的な科学実験が可能な「実験型キット」等があり、ユニークな貸し出しキットは学校での授業中のアクセントとなっている。

また、ミュージアムショップでは、様々な科学実験キットが玩具のように販売されているが、店構えもゲームセンター&映画館との斜向かいに位置しており、様々な年齢の購買層へ自然にアピールしている。

子供たちが自分のおこずかいで買って、家で家族と一緒に科学を楽しむ、これこそが理想的な生涯学習ではないだろうか。

昔、幼いころ、学研の実験用付録を親と一緒に楽しんだ記憶を思いださせる施設だった。

＜株式会社丹青社 第3文化空間部 工藤 篤＞



リソースセンター資料ケース等

めざすのは 「小宇宙」の実現です。

NOMURA
株式会社 乃村工藝社

本社／東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話03-3455-1171(代)
ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工



COLORATA.

ミュージアムグッズの企画・制作・販売・輸入
カロラータ株式会社

本社・企画室

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル
TEL.03-3865-8110 FAX.03-3864-4049

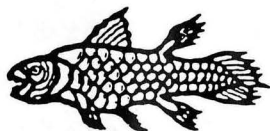
営業部・商品管理部

〒136-0072 東京都江東区大島2-13-11
TEL.03-3684-8311 FAX.03-3684-8310

美術

は く 製

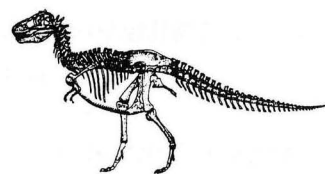
〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工／販売／リース



有限 東洋近代美術研究所
会社

製作所 〒272-0816 直通 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 ☎047-337-5883
FAX 047-338-1978
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式 ゼネラル サイエンス
会社 コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

— 全 科 協 情 報 —

○巡回展「ふしぎ大陸南極展」について

今年度より実施している巡回展「ふしぎ大陸南極展」は第1会場の福岡県立青少年科学館、第2会場の日南市（宮崎県立高等水産研修所）とも、大変盛況のうちに会期を終了しました。

入場者数

福岡県立青少年科学館	41,013人（37日間）
日南市	18,149人（36日間）

第3会場は山口県の防府市青少年科学館で平成10年10月22日から11月29日まで開催されます。

今年度最後となる第4会場は神戸市青少年科学館で、平成11年3月7日から開催が予定されています。



南極展：福岡県立青少年科学館会場

○科学系博物館ホームページ活用研修会について

科学系博物館の総合的な開発・高度化支援事業として、マルチメディア技術を活用したホームページの作製手法等に関する研修会を開催する予定です。昨年度は初歩的な講習会でしたが、今年度の研修内容については検討中です。

研修会に対するご意見、ご要望がありましたら、事務局までご連絡ください。

開催期日 平成11年1月27日(水)～29日(金)（3日間）

参加費 無料（旅費、昼食代等は、各自負担）

○巡回展「数学展（仮称）」について

「ふしぎ大陸南極展」につづく巡回展企画として現在「数学展（仮称）」の基本構想、展示計画についてワーキング・グループを中心に検討を進めています。

この「数学展（仮称）」は平成11年度から巡回展として各加盟館を中心に各地域で、実施していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

実施期間 平成11年度から平成13年度まで（3年間）

規 模 展示面積 150 ～ 500㎡程度

展示内容 数学のおもしろさ、自然のなかに現れる数学、日常生活に取り入れられている数学的知恵などを、実物に触れたり、実験装置を活用しながら学習できる「体験学習展示」を計画しています。

例) 万華鏡、ひまわりなど自然のなかにあるフィボナッチ数列、音と音楽、トポロジーの世界ほか

○海外科学系博物館視察研修について

海外科学系博物館視察研修は、科学系博物館における職員の資質向上等を目的として、海外の科学系博物館における管理運営、展示技術及び手法、教育普及活動、地域との連携事業など、博物館活動に関する知識を深めるため、例年実施しています。

平成10年度は次のとおり計画しましたので、ぜひご参加ください。

期 間 平成11年1月11日(月)～1月24日(日)

訪問地域 北米地域

(ワシントン、アトランタ、ヒューストン、ロサンゼルス)

申込締切 平成10年11月20日(金)

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL <http://www.tanseisha.co.jp>



INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT

ONY KOBO CO., LTD.

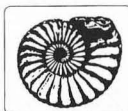
東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

本 社 〒151 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
-0051 TEL. 03-3350-6725 FAX. 03-3350-6745
株式会社 **東京サイエンス** ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL. 03-3354-0131(大代表)

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



Fossils, Minerals & Rocks

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

縮尺：実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用
ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事
業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしてお
ります。

編集後記

第163号の特集は、神奈川県立生命の星・地球博物館
が担当しました。次回は、江ノ島水族館の担当です。

ご期待ください。

このニュースは再生紙を利用しています

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス

▲人体型ロボット
コスモ博士(宮崎科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205-0023 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL 0425 (30) 3911(代)・3939(営業)
FAX 0425 (30) 3900・3927(営業)